

2014年度 自立援助ホーム こどもの家 事業計画

＝子どもの人権を守り自立を支援する＝

私たちはキリスト教の精神に基づき、今、最も援助を必要としている子どもたちと共に歩む決心をし、この事業を継続している。表題である子どもの人権を守り自立を支援するために以下の目標を掲げ、職員一丸となって邁進するものである。

1. 2014年度事業として、長年の懸案であった新しいこどもの家の建設計画が、具体化された。2014年9月以降に牛舎敷地の一角において建設工事が始まり、2015年3月に入居を予定している。

2. 恵まれた環境を活用した「働く文化」の継承

施設は、敷地約50万㎡の広大なデンマーク牧場の中心に位置している。四季折々の豊かな自然に囲まれ、牛や羊、馬、山羊、鶏、などの家畜をはじめ、様々な生き物が身近に暮らす日々である。デンマーク牧場がフリースクールを開設した時(1983年)から、職員と子どもたちは、共に力を合わせて家畜を飼い、米や野菜を作り育てる生活を大切に続けてきた。仲間と共に「働く」ことを通して、喜びや悲しみを分かち合うことを知り、自然への畏敬を全身で感じ、「祈り」や「感謝」を積み重ねる生活でもある。

「生きる力」を取り戻し、育む環境が整えられているこの場を、職員と子どもたちが共に力を合わせて守り、大いに活用していきたい。そして共に「働く文化」を培い、大切に継承していくことをめざす。

牧場の運営を社会福祉法人が責任を持つこととなって2年目となる。牧場と共にある施設として誇りを持ち、名実共に発展させていきたい。

3. 精神科診療所「こひつじ診療所」との連携

こひつじ診療所が身近にあるために、こどもの家へ入所している被虐待児をはじめ、様々な課題を持った子どもたちが気軽に受診できる体制ができている。医学的診断と援助のもとに、子どもたちとの質の高い援助を目指したい。

4. 児童養護施設まきばの家との連携

法人が、児童養護施設と自立援助ホーム両方の施設を運営することで、それぞれの施設の課題がより明確になり、さらに弱さを互いに補い合う努力が各施設を成長させ、結果的に入所児のケアの充実につながると考える。従って、この連携をより確かなものにしていくように努める。

職員研修についても、まきばの家と合同で進めていく。

5. 関係機関との協力体制の確立

①児童相談所との連携

施設は、児童相談所との良好な連携のもとにすすめられてこそ充実した成果を生み出すことができると考える。児童福祉の最前線を担う仲間として、特に児童相談所との相互理解を果たしていく。

②就業支援事業所「しあんくれーる」との連携

就業援助は、自立援助ホームの大きな課題である。就労への動機付け、職場探し、履歴書の作成等々寮生が仕事に就く前にはいくつもの難関がある。

2009 年度より始まった就業支援事業所「しあんくれーる」との連携に努め、退所後の様子など職場関係者との信頼関係に基づいた情報の共有に努める。

6. リービングケア、アフターケアの充実

こどもの家を退寮した後は、一人暮らしをするものが圧倒的に多いため、ゴミの出し方、銀行口座の作り方、送金の方法、生活費の管理、休日の過ごし方等々生活の細部にわたり、具体的な助言や援助（リービングケア）が必要な場合が多い。また、自立援助ホームにおいては、日常的にアフターケアが重要な仕事になる。就業支援事業所「しあんくれーる」との連携に努め、退所後も子どもたちを見守ることが出来る体制作りを目指す。

7. その他

全国自立援助ホーム協議会を通して、他の自立援助ホームとの連携をはかると同時に、時代の要請（ハード面、ソフト面の充実）に応えつつ、「最後の砦」を堅持する気概を持って活動を続けていく。